

平成 27 年度 恵那市総合教育会議（第 2 回）

□日時 平成 27 年 8 月 28 日（金）16：00～17：00

□場所 恵那市役所西庁舎 4A 会議室

□次第

（進行：まちづくり推進部次長）

1. 開会
2. 会議の公開について
3. 議題
 - ①恵那市教育振興基本計画について【審議事項】
 - ②その他
4. 閉会

□出席構成員 6名

可知 義明（市長）、龍田 和子（教育委員長）、鎌田 基予子（教育委員）、
井口 道雄（教育委員）、西尾 修欣（教育委員）、大畑 雅幸（教育委員（教育長））

□議事録

1. 開会

■事務局（進行） 平成27年度第2回恵那市総合教育会議第1回を始める。開会に当たり市長から挨拶をいただく。

■市長 先日、「中学生、市長と語る会」を開催した。今回は第2次恵那市総合計画の策定に当たり、中学生16名に「恵那市の好きなところ、好きでないところ」を発表してもらい、さらに「10年後こんなまちになってほしい」というテーマで、私が座長となり、予定時間を30分も延びてしまったが、2時間半にわたって議論を交わした。最後に私が聞いたのは、「皆さんは10年後に恵那市に住むのか」ということだ。時間の都合もあり、手を挙げた子だけに聞こうと思ったら、全部手を挙げたので全員に話してもらった。意見は厳しかった。帰りたくない。「魅力があれば帰る。私が言ったような恵那市になっていれば帰るが、そうでなければ帰りません」ということだ。そこで感じたのは、串原、上矢作、飯地の子が自分の住んでいる地域に帰ってくるという感覚で意見を言っている。「恵那に」ということではない。今住んでいる地域は、帰ってきて店も交通機関も何もない。そんなところに帰って来たくないという考え方だ。だから、大井・長島など、市街地の子もたちとの感覚とはちょっと違う。恵那市が好きだと思ふことは誰も共通していて、「自然が豊か、歴史文化がある、人の優しさがあり観光地もある」。しかし、好きでないところは、「働き場所がない、交通の便が悪い、若者、子どもの遊び場所がない」など。将来はどんな恵那市を望むかという、やっぱり働き場所がある、若者に魅力があるまち、交通網がしっかりあるまち。想定した話だったが、若者の目は都会に向いている。どういうことをしたら定着してくれるか。

少し前に東濃の首長会議があり、恵那市から提案した議案は「首都機能移転について」というテーマだった。国のいろいろな機関を地方に移転したいという話を受け、恵那市も手を挙げている。例えば岐阜県は航空関係など出している。恵那市も研究機関等を5つ挙げたが、それよりも「省庁、たとえば文科省などを持ってきたらどうか」と、東濃5市の首長に提案したら、感触は今ひとつであった。そんな実現性のないことを言うものではないと。最後に私の方から、「私も含め、みんながそう思っていて、行動に移していないからこそ一極集中になっている。駄目と決めつけるのではなく、そこを打開しないと一極集中は変わらない」と申し上げた。日本全国で、実現性が無いから、言っても無駄だと諦めている。だから、さらに東京に一極集中する。でも、かつて東濃地域に首都機能を移転しようと運動したことがある。リニアもできるから東京から1時間で来られる。ここに省庁があっても別に不思議でないし、むしろこのの方が安全だと言えると私は思って提案したが、そんな感触だった。「現実性」という話もあるが、夢・理想は追わなければならないと思っている。

今、地域懇談会を行っており、13地域を回っている途中である。地域によって全く内容が違う。恵南地域では、岩村がまだ残っているが、中学校の統合の話が出てい

る。飯地では小学校の話が出た。私どもが残すように努力すると言っても、その確証を得たいというようなことを言われた。私も市長として責任を感じた。

恵那市が合併して11年目だ。恵那市の統一を念頭に置いて進めてきたが、飯地や中野方の人すら、中心地のことを「恵那」と言う。同じ恵那市内なのに、真ん中が「恵那」だと。私は全てが恵那だと思って、中心地は大井、長島と言う。行財政改革審議会から答申をもらったが、オール恵那で考えようということがしっかり入っている。中学校の統合問題にしても、恵南地域のみの問題では無く、恵那市全体の問題だ。恵那市は地域振興に力を入れてきたが、ある面でいいところ、ある面では良くなかったところがあったかもしれない。地域自治制度による地域振興で、地域の意識が高まった。地域がうまく動いていけば全体で盛り上がってくるが、それがバラバラになってお互いの足を引っ張るようになってしまっただけでは失敗だと思う。これからの第2次恵那市総合計画では、次の10年でそこまでまとめていくことが必要だ。総合教育会議もその辺を見ていただき、次なるステップに向けて皆さんで考えていただきたい。

■事務局（進行） 教育委員長から挨拶をいただく。

■教育委員長 策定委員のご努力で、ある程度の計画が出来上がっている。それを今日、私たちがしっかりと見させてもらって協議をしたい。教育委員会の活動の中でも、今さら全く違うものをやるわけでもないし、今までの続きであり、さらにこれから先を見据えたところの一番大事な部分を本日協議すると捉えている。出てきたプランについて、率直な意見をいただければと思う。

■事務局（進行） 市長から「中学生と語る会」について話が出たため、会に出席した教育長からも一言お願いしたい。

■教育長 恵那に残るかというテーマでは、残らないという厳しい意見が出たが、同じ答えでも地域によって言いっぷりが違っていった。周辺地域の子たちは、わりとサバサバと「もう恵那にはいないと思います」と言う。が、市街地の子たちは、悩みながら、こうだったら残るかもという答え方をする。ということは、家庭等では「将来仕事もなかなかないし、出て行ってしっかりやれ」という、外に送り出すような教育をされているのではという気がした。

私たちは学校教育の中で「郷土愛」というのを掲げてやっている。今は子どもたちからすると車の免許もなく、交通機関がどうこうという話も出たが、車の時代で、ある程度道も良くなっている中で、あと10分・15分走れば仕事先も市街地と変わらない。もっと現実に直面したとき。こういうことを勉強して、こういう職業に就きたいといっても誰しもがそうはいかない、どれだけか限られた条件の中で選ぶかということで、きっとまた悩むときがある。そのときに、地域や家庭や親をどれぐらい思っているかは、地域に残る大きな要因になってくると思う。私たちは学校教育の中で、あるいは地域教育の中で、もっともっと子どもたちに家庭・親ということを意識させる要素を、恵那市の学校教育や地域教育に入れてもいいと強く思った。そういうことを、この計画にさらに加えられないかと思っている。

2. 会議の公開について

- 事務局（進行） この会議は公開で進める。

3. 議題

① 恵那市教育振興基本計画について【審議事項】

- 事務局（進行） 教育振興基本計画について、今回は計画を決定する場ではないが、中間報告として意見をいただきたい。

[事務局から資料に基づき説明]

- 西尾委員 「2. 計画の位置付け（資料1：p.3）」のレイアウトで、国・県・市のうち県だけが一段下がっていることに意味はあるか。

- 事務局 教育振興基本計画については、国の次に県が作られているので1段下げた。恵那市は、総合計画が上位に来るため、際立たせてある。分かりやすいように上下で示したつもりだが、国・県・市の順位を示しているわけではない。レイアウトは分かりやすくなるよう工夫して対応したい。

- 井口委員 「パブリックコメント（資料1：p.45）」というのは行政用語か。

- 事務局 そうだ。

- 井口委員 市民に分かる言葉にするとどうなるか。

- 事務局 「広く意見を問う」。

- 井口委員 手法はアンケートなのか。意見聴取をするのか。

- 事務局 計画書そのものを市ホームページに掲載するほか、各振興事務所や市役所で閲覧いただいて、ご意見をお寄せいただく。また、概要を広報えなに掲載して周知する予定。

- 井口委員 過去にそういうことをしたときにはたくさん意見が寄せられたのか。

- 事務局 計画にもよる。教育の関係ではこれが初めてだ。

- 事務局 スポーツ振興計画策定の際は、あまり意見がなかった。総合計画ではパブリックコメントを8月6日から開始し、今日までに7件出てきている。各種の計画を定めるときには、広く意見を募集して定めなさいという流れが、行政の公開性の理念の基に行われている。

- 井口委員 当計画は基本的には、現状の恵那市の教育について肯定しながら、さらに質の高い教育を求めるために、この振興基本計画を作成しますと。それぞれのライフステージでこういう具体的な施策をやって、10年間にこんな市民、児童生徒にしたいということだ。

- 事務局 そうだ。教育をどう振興していくかまとめたものだ

- 井口委員 そうすると、今の状況はこういう社会的背景があるからだという分析をやりますよね。少子化、情報化、地域の連帯感の欠如。それは今始まったことではなく

何年も前から進行している。現状の背景を分析するとき、「1. 計画策定の趣旨（資料1：p. 2）」では10年前と同じような背景、要因が書いてある。少子化に伴う数の減少、地域の人間関係の希薄化、情報化の一層の推進と書いてあるが、10年前にはこういう内容はなかったのか。

■事務局 項目としては、あまり変わってないと思う。ただ、分析は総合計画の方で十分行っており、当計画はそれを受けてのものなので、背景は軽く触れ、それよりもこれからやるべきことを重点的に記載している。

教育振興基本計画の難しいところは、教育はどうしてもやらなければならない部分は絶対あるので、それも載せつつ、これから先を見たときに、これは大事だというものを出していき。また、時代の変化に対応すべく、5年後に一度見直しをするということで、まず基を作って動き始めて、この5年間でもう少し丁寧に見直しをして次の5年につなげたい。

検証、分析をどの時点でやるか。また、もっと市民の声を聴くためのアンケートについて、各部署でいろいろなアンケートをやっているの、それらのアンケートを活用できるかどうか、そういった連携もこれからは必要だと思っている。そこは、これからの課題だと思う。

■市長 総合計画は平成28年3月策定とある（資料1：P. 16）。教育振興基本計画は10月に策定とのことだが、それでいいのか。

■事務局 総合計画は12月議会に諮る予定。

■市長 三学のまち推進計画も平成28年3月となっている。総合計画が3月に策定するのに、教育振興基本計画が先に行くことはあり得ない。地域懇談会でも総合計画が最上位の計画だと言っているのに、その前に教育振興基本計画ができたなら何にもならない。その整合性を取ってほしい。

もう一点。三学のまち推進計画を平成28年3月策定とあるが、策定開始から2年も掛けて作っている。なぜここで強調しているかということ、計画策定にすごくエネルギーを使っているからだ。ここの委員会では2年もかけて作っている。地域で地域委員会まで作って、全市挙げて三学のまち推進計画を策定しているのに、パッと出てきた教育振興基本計画が教育大綱だから上位になると。そのときに皆さんがどう見るかということがある。少なくとも委員にしっかりとご説明して整合を取るとかしないと、あれだけエネルギーをかけて三学のまち恵那を打ち出しているのに、教育大綱がどうなんだということだ。三学のまち推進計画の中身をしっかりと教育大綱に定めたという話ができなければいけない。

■事務局 記載方法や、教育振興基本計画の策定期限、議会や各計画の委員等への説明については、事務局の方で調整する。

■教育委員長 この会議の前に教育委員会の会議をやっており、学校教育と家庭教育のことが出た。基本計画を考えるにあたり、「親子ともどもが育つような教育」という

ような一文が入れられればと思う。そういったことを呼びかけて、子育ての勉強会をやってもらうこともできる。そういう文言を入れることが可能かどうか聞きたい。

■事務局 どこに入れるかは、計画の構成上、「主体性・社会性・郷土愛」としてしているので、「具体的にここ」というところは難しいが、教育にとっては大切だということで、加えていきたい。

■教育委員長 4行目(資料1:p.28)に、「家庭や地域社会における地域力の低下が懸念されています」とある。ここを、親子ともども育つという意味を込めて、修正しては。

もう1点は、スポーツに該当する施策2-7(資料1:p.35)の具体的な取組。他の教育施策の具体的な取組に比べて、説明がぼんやりしている。地域でスポーツをやる必要性についての提案だが、地域で年代別にどのぐらいの人がいるかの把握が必要だ。それは振興事務所で把握していると思う。なぜスポーツをするかについては、高齢者なら足や腰が痛いとか、それにはこういうスポーツがいいとか、その意味付けに合ったスポーツに誘うという形も必要だと思う。ただ単に「スポーツをしましょう」と、先日の「市長、中学生と語る会」でもあったように、交通の手段がない。特に周辺部では独居の人がすごく多い中、誰かに頼まないといけない。そこまでして行く必要があるのかということになる。何のためにやるのかという意味付けが、「自分たちのため、自活するため」ということではないと、なかなか普及しないと思う。

一番問題なのは、中学生もそうだが、移動手段だ。スポーツをするということプラス、そこまで行くのに何が必要か考えて提案していただけると、もっと身近になる。あるいは会場を細かく分散するとか。いろいろな方法があると思う。それも考えてほしい。

■事務局 教育振興基本計画とは別だが、現在策定を進めている第2次恵那市総合計画の体系で説明したい。総合計画は「理念・快適・活力」という3つに仕分けしている。

「快適」のところで、「便利に暮らす」という項目の中に「移動手段の充実」があり、移動手段については利便性の確保という観点で、スポーツだけでなく買い物などあらゆるものの利便性を想定している。また、「活力」の中で「いきいきと暮らす」という項目の中に「生きがいをもって暮らす」があり、文化・スポーツを位置付けている。今ご指摘いただいたものが大系の中で分かれているということで、関連付けについてはご指摘の通りだ。こういうのを横につなごうということを考えている。移動手段は高齢者の病院の問題もあるし、子どもたちの居場所、遊び場ともつながる。こういう整理の仕方をしているということを理解いただきたい。

それから、教育振興基本計画では、「運動・スポーツを通じたコミュニティづくり」ということだけが載っているが、スポーツ振興計画の中では裾野を広げるため、1つ目の柱は、「運動」という概念を取り上げている。スポーツの前段として、健康という意味で運動を捉えようと。2つ目に、スポーツを通じて子育てをする。3つ目にコミュニティがある。そこからの抜き出しなので、この記載だけを見ると全体が見えなくなる。そこは分かりやすくしないといけないと思う。

家庭・地域での教育力の向上について。「主体性」には出てこないが「社会性」に

出てくる。「2-1 子育て環境の整備（資料 1：p. 33）」と「2-3 家庭教育の支援（資料 1：p. 34）」の中で、親への社会教育的な視点を捉えている。「主体性」と「社会性」を鑑みて、区分的に地域教育・家庭教育はここに出てくる。

■事務局 ただ、「主体性」と「社会性」のどちらにも載せることはできるし、「2-3 家庭教育の支援」は生涯学習課の視点で書いているので、「幼児教育課が捉えている家庭教育」という視点で 1-1 に書くことはできる。「家庭教育」がいろいろなところに書いてあっても整理がしやすいよう、担当課を掲載した。

■鎌田委員 基本構想の体系（資料 1：p. 24）で、世代ごとの学びのあり方ということで、「少年期・壮年期・老年期」とある。生涯学び続けるということで大変分かりやすいが、少年、壮年、老年とは。たとえば自分が壮年だと思えばそれでいいのか。

■事務局 これはいろいろと表現を検討した。三学の精神からまず取ろうということで、「少にして学べば・・・、壮にして学べば・・・、老いて学べば・・・」をそのまま持ってきた。年代は、それぞれのものによって定義が違うので、自分が壮だと思えば壮だということ。全体として、生涯でこれだけのことはやってほしいという項目は提供しているので、それをどう受け止めるかは個人による。年齢は出せない。少年期は中学校、高校ぐらいまでかなと思う。その後、老年期の前の人はみんな壮年期ということ。何か提案があれば戴きたい。

■井口委員 私も 71 歳だが、老年期と言われると・・・。言葉の響きがあまりよくない。もう 10 年も経たないうちにあっちに行くという感じがする。三学の精神は分かるが、イメージとして老年期というのは良くないので違う言葉の方がいい。

■鎌田委員 「少・壮・老」だけの方がいいのでは。

■井口委員 老年期はなくていい。イメージが悪い。全てが衰えていく感じがする。

■西尾委員 あくまで三学の精神を強調するならこれでいいと思う。だからわざわざ下に三学の精神が書いてある。意図は分かるからこのままでいいと思う。あえて言うなら青年期があってもよかった。

■事務局 最初はそのように 4 つぐらい言葉を上げていた。でも三学でいくことにした。

■井口委員 そうだと思う。ただ、70 歳も過ぎると老という言葉が好きではないだけだ。

それから、それぞれの項目。例えば、施策 2-1（資料 1：p. 33）。ここに「少子化、核家族化、女性の社会進出などにより子育てしづらい環境が増しています」とある。女性の社会進出はプラスに取るべきなのに、マイナスの表現がしてある。社会進出は大事だし非常に求められていることだ。

記述が、マイナスの背景・要因から書き出してあるものが多い。そうすると現状を否定されているように見える。現状を肯定した上でさらに上のランクに行くという振興計画でないといけない。プラスの書き出しのところもあるが、マイナス面の強調が多い。

■事務局 修正する。

■事務局 始めに井口委員から話があった「10年間にこんな市民、児童生徒にしたいということ」について補足する。現在パブリックコメントを行っている「第2次恵那市総合計画（案）」の42ページが教育振興基本計画の「主体性」に関連する部分だ。「学ぶ力を付ける」というテーマがある。今回の教育振興基本計画では方向性は示されているが、「どの程度まで」というレベル感まで設定するのは非常に難しい。総合計画では目標指標の一例として、「物事に積極的に挑戦する児童」としている。これは全国学習状況調査で、恵那市の子どもがどの程度にあるかという視点で数値を使っている。これが、平成26年71.7%を5年後に74.0%にするとか。中学3年生も同様だ。一般市民の指標は、市民意識調査から持ってきている。これが総合計画の中で表記してある。

これに対して教育振興基本計画は、この目標指標に向かって具体的に何をすることを示すものだと解釈している。2つの計画を照らし合わせないと全体が見えないということについては課題があるが、個別にサブ的な目標指標を抱えてもいいと思う。1つの計画の中で見える姿にすることも大事だ。ただ、上位計画としてはこういう目標指標を設定している。

②その他

■市長 今日は1時間しか準備されていなかったのが時間が足りなかった。公式の場に拘らず、教育委員と私との対談の場を設けてもいいし、教育委員だけでやっていただいてもいい。どんどん意見を出していただき、計画を練ってもらいたい。

パブリックコメントもいただき、当会議に関心のある人もいる。計画に意思がしっかり入っていることが重要だ。計画案は一旦事務局で練ってから、教育委員に確認していただき、その上でパブリックコメントに入ってほしい。

■事務局（進行） 次回は10月22日を予定している。

4. 閉会